

まちなか図書館ワークショップ

第1回開催レポート



まちなか図書館 ワークショップ

7/19 (日) 7/26 (日) 8/9 (日)
全3回
14:00～16:00



-全3回プログラム-

第1回

まちなか図書館にはどんな本がいい？

～どんな時に、どんな人と、どんな本で、何をする？～

日 時 | 令和2年7月19日 (日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

第2回

「本の倉庫」から「本のある広場」へ

～まちなか図書館をみんなでシェアするために～

日 時 | 令和2年7月26日 (日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

第3回

「本のある広場」で何をする？

～まちなか図書館をみんなの活躍の場にするために～

日 時 | 令和2年8月9日 (日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

開館1年前となった「まちなか図書館」の具体的なサービスや機能について、参加者が意見を出し合って「新しい図書館づくり、そして豊橋のまちづくりに参加しよう」というワークショップを全3回、左記のテーマで開催しています。

今回は、第1回ワークショップの概要についてお知らせします。

みなさん、積極的にそれぞれの考え方を発表したり、他の方の意見に耳を傾けたり、その意見に触発されて新しいアイデアが生まれたり、と活発な議論が交わされました。

第1回ワークショップの流れ

時 刻	内 容
PM2:00	○あいさつ ○ワークショップの主旨、進め方等の説明 ○アンケート結果の共有 ○ファシリテーター紹介 ～株式会社豊川堂 代表取締役社長 高 須 大 輔 氏～ ○まちなか図書館（仮称）の概要説明
PM2:25	○グループワーク テーマ：まちなか図書館にはどんな本がいい？ ～どんな時に、どんな人と、どんな本で、何をする？～ [グループごとに] ・自己紹介（1分程度×5人） ・グループワークの進行役、発表者、タイムキーパー、もりあげ隊の決定 ・テーマ：この本があると、こんないいことがあります！ ◇本が活躍する場面を想像してみる ◇ひととつながり、まちとつながる本 ・グループ案作成（発表のためのまとめ）
PM3:30	発 表
PM3:50	ファシリテーターによる講評

グループワーク ～この本があると、こんないいことがあります！～



定刻には全員が着席し、いよいよスタートです。まずは、まちなか図書館開館準備室長のあいさつ、続いて事務局より、ワークショップの主旨や、全3回の流れについて、そして具体的な進め方について説明し、アンケートの結果についても共有しました。

次に第1回のファシリテーター、株式会社豊川堂代表取締役社長の高須大輔さんをご紹介します。図書館が出版文化の維持に寄与するため、連携相手である書店を代表して、また、図書館とは違った立場の「本のプロフェッショナル」として、今回ファシリテーターをお願いしました。



高須さんにはご自身の体験から「バーベキューに使える本があったら嬉しいな」とか「青年会議所の活動などではSDG s に関する本や、情報源が信頼できるデータの載った本があったら利用したい」などの身近な例を使って「役に立つ本・行動につながる本」のイメージを伝えていただきました。

各グループ内で自己紹介と役割決めをしたら、いよいよグループワーク開始です。「こんな本があったら…」というものを付箋に書き出していきます。スラスラと書き出していく方、じっくりと考えながら書き込む方、やり方は人それぞれですが、みなさんしっかりと「本」について考えている様子が伝わってきます。



グループワーク ～この本があると、こんないいことがあります！～



付箋がたくさん用意できたら、それぞれが自分の意見について、解説を加えながら模造紙に貼っていきます。視点が重なるような意見が出たら近くに貼り、模造紙の上で意見のグルーピングをしていきます。この時点で「その視点ならこんな本も」というように追加の付箋も増えていきます。



どのグループも進行役のリードに従い、全員が盛り立て、協力し合ってワークを進めていきました。この間、ファシリテーターの高須さんは各グループを回り、さらなる議論のきっかけを作ったり、話題への理解を深めたりするためのアドバイスをしていただきました。



30分ほど意見を出し合ったところで、発表のためのグループ案の作成に入ります。グルーピングしたものの性質や特徴に着目して名前をつけたり、さらにそれがどのように「役立つ」か「行動につながる」か、と考えていきます。

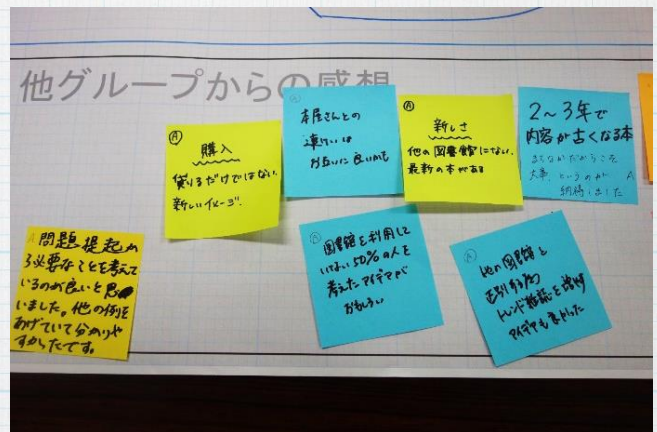
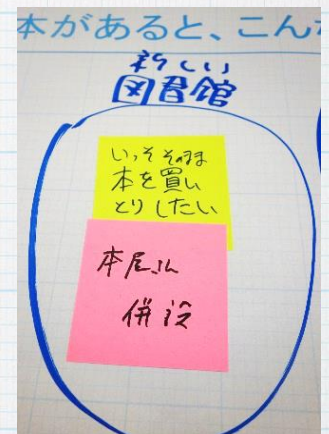
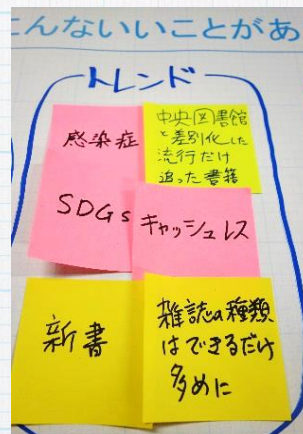
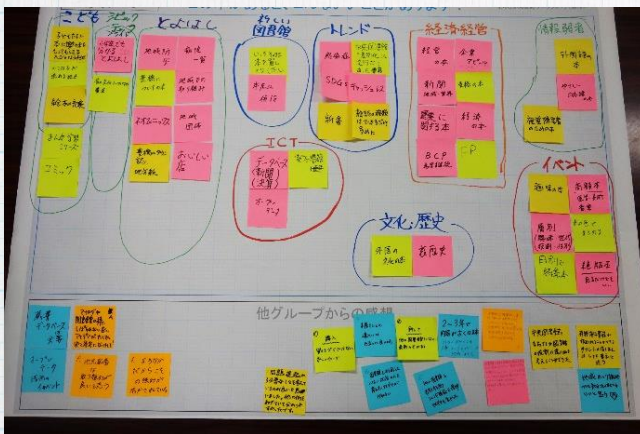


本が働きかける利用者像や、その働きかけ方、また、まちなか図書館のゾーンごとにわけたりなど、各グループでそれぞれオリジナルな案が出来上がりました。そしていよいよ発表へ！

中央図書館と差別化し常に最新の情報を提供
シビックプライドを育む地域情報の充実



Aグループは、今まで図書館に来ていなかった人
たちを想像して、必要な本を検討しました。そ
の結果、グルーピングは「新しい図書館」「ト
レンド」「経済・経営」「ICT」など目的や分野
別のものに。中には「そのまま本を買い取りた
い」や「中央図書館と差別化した流行だけ追っ
た書籍」などの革新的な意見もありました。



「とよはし」というグループの横に「シビックプライド」というグループがおかれています。シビックプライドとは都市に対する市民の誇りのことですね。「とよはし」の本には「病院一覧」「おいしい店」といった実用的なものがあるのに対して「シビックプライド」の本は「小学生でもわかってよはし」「昔の文化についての本」という具合です。まちづくりに積極的に参加しよう、という熱意が伝わってきました。

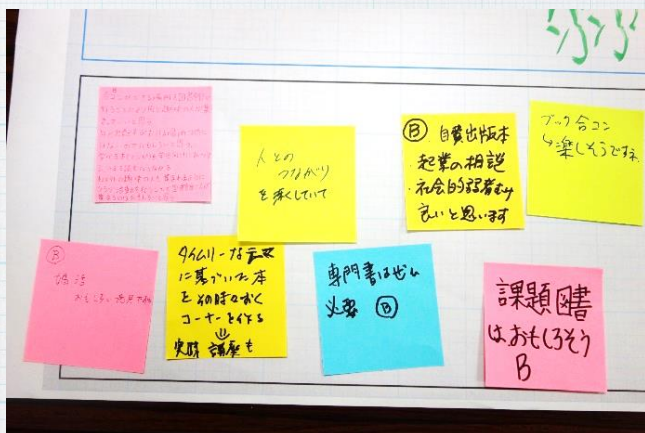
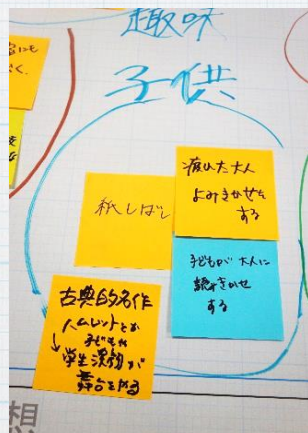
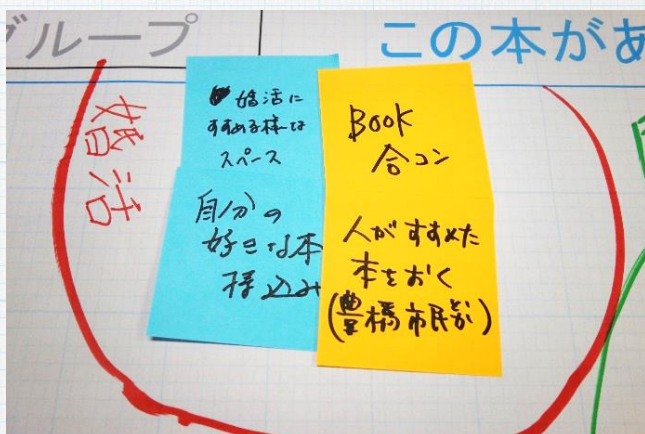
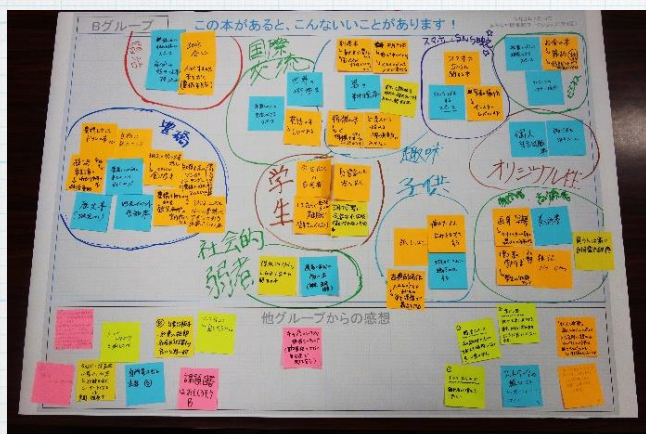
他のグループからの感想には「地元密着」「新しい発想」を評価する声が多かったです。

Bグループ発表

利用者のおすすめ本や日々の暮らし、活動を応援する本
美術書や画集、写真集など個人では買えない高価な本の充実



「BOOK合コン」や「国際交流」「スマホ、SNS映え」というアクティブなグルーピングをしたのがこちらBグループ。「今話題の将棋の本があれば」や「まちなか図書館に将棋サークルがあれば絶対参加する!」といった意見、お片づけの本があるとイライラが減って気分がよくなる、といったコメントもありました。



クリエイターの卵やモノづくりの参考となる画集、美術書、写真集など、個人では買えない高価な本を揃えてほしいといった意見や、「オリジナル性」というグルーピングで「自分で本を作りたい人」「自主出版」という意見が出ました。また、学生向けに『働く細胞』など勉強にも使える学習まんががあるといい、という意見もありました。性的マイノリティや障害者への目配りもあり、動的で、バランスの取れたアイデアが提案されました。

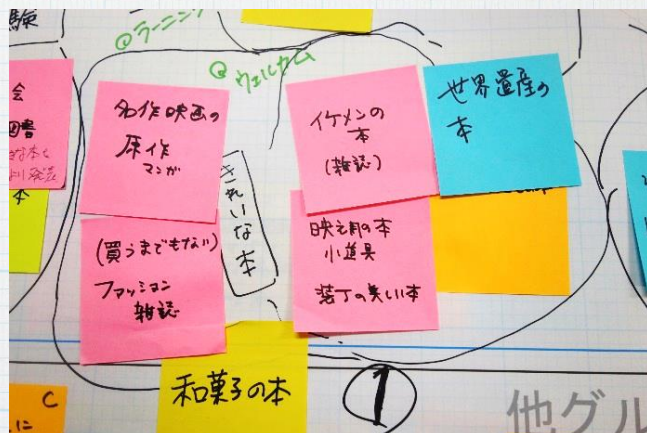
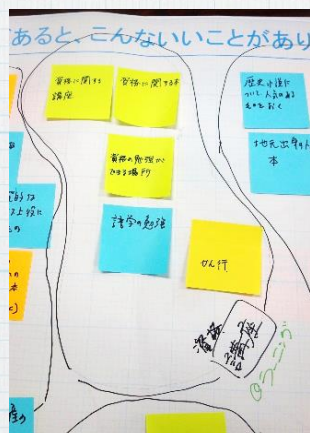
感想欄にはBOOK合コンを含め、人のつながりを考えた意見に賛同の声があがりました。

Cグループ発表

本と活動を結び付けた五感に訴えかけるサービスを
まちなか図書館の顔としてふさわしい「美しい本」とは？



Cグループは「あったらいい本」をまちなか図書館の各ゾーン、スペースごとに考えてグルーピングしました。中には図書館から屋外へ飛び出すアイデアも！「本に出てくる音楽を聴く」「本に出てくる食べ物を食べる」「科学キットを使った活動」など、いろいろな本と活動を結び付けた意見が出ました。



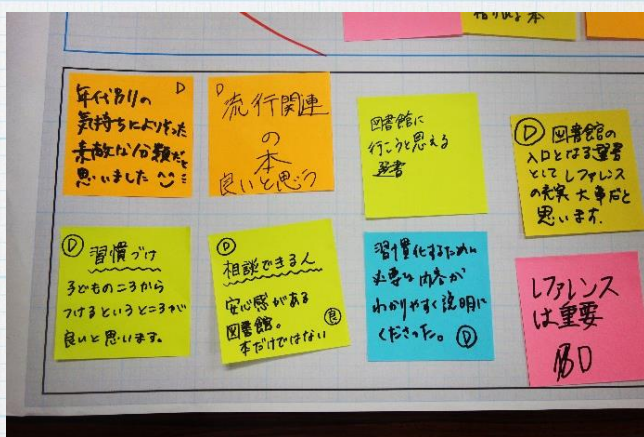
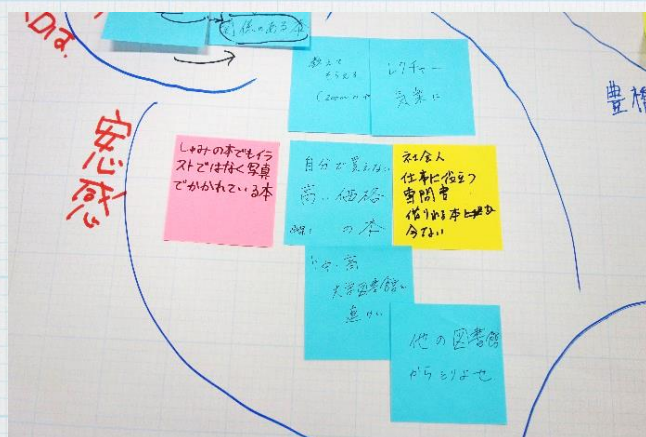
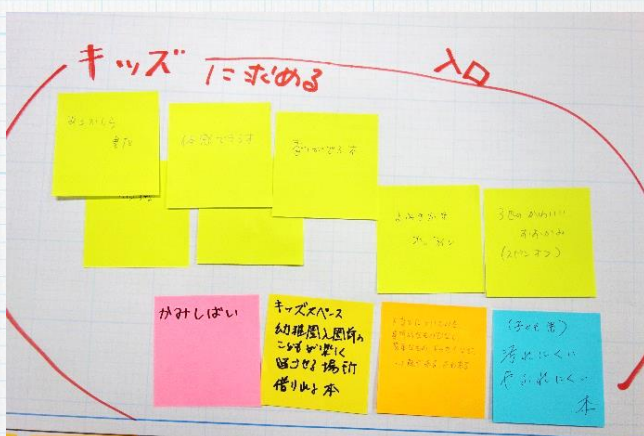
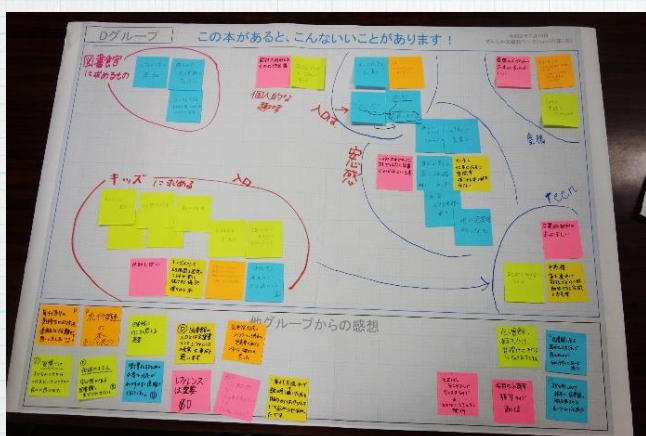
ウェルカムゾーンやアクティブゾーンは、まちなか図書館を訪れるすべての人が初めに目にする空間であり、顔となる重要な場所です。そうした視点からふさわしい本は「手に取ってもらいやすい美しい本では」ということでさまざまな視点から本があげられました。「装丁の美しい本」にはじまり、「世界遺産」「名作映画の原作」「ファッション雑誌」などなど。「インスタ映えのする本を選び様々な機会に紹介することで、多くの人の目に留まり、訪れてもらえるのでは」といった意見が提案されました。感想欄には特にウェルカムゾーンの使い方への関心が集まっていました。

Dグループ発表

図書館へ足を運んでもらう“入口”（キッカケ）となる本は？
図書館に求められる新たな機能とは？



Dグループは「図書館に足を運んでもらうには」というテーマで検討しました。各世代にとって「どんな本が図書館への“入口”（キッカケ）となるのか」という視点です。子どもたちが遠慮なく読めるよう「汚れにくい、破れにくい本」というリアルな意見や、「香りが出る本は関心をもってもらえるのでは」といった意見がありました。



「図書館に求められる新たな機能」にフォーカスしました。利用者のさまざまな要望に応えるサービスがあれば「困った時は図書館へ」「図書館に行けば何とかなる」と思ってもらえるのではないかな。さらに「レファレンスサービス」という図書館が従来やってきた「調べもののお手伝い」というような課題解決支援に関することまだまだ浸透していない、さらに周知が必要、という意見もありました。他のグループの感想も「図書館利用の入口となる視点」を評価するものが多かったです。

時代が動いても変わらない本の価値 まちなか図書館を、本について、読書活動について、行動 するきっかけに



すべてのグループの発表が終わり、ファシリテーターの高須さんより講評をいただきました。まず、みなさんが初対面であるにもかかわらず、すぐに打ち解けて、活発な話し合いができたことに感心されていました。それができたのは、「参加者のみなさんが、豊橋のことを大切に考えている証拠であり、好きな本について意見を交わしあうことを通じて、新しい図書館づくり、豊橋のまちづくりに前向きに参加したからでしょう」とのことでした。



また、まちなか図書館を中央図書館や向山図書館、大清水図書館と対比させて考え、特にまちなか図書館に必要なものは何かを考えることによって、さらに有意義なワークショップになっていくでしょう、とのアドバイスもいただきました。

新型コロナウイルスにより、外出自粛など日常生活が大きく変化した中において、本が人々の暮らしの中でとても大切にされてきたことや、後世に残すべき貴重な財産であることも紹介していただきました。まちなか図書館の整備というこのタイミングは、私たちの暮らすこのまちの図書館について、本について、読書活動について、一人ひとりが考え、行動できるチャンスであるとの講評をいただきました。また、ワークショップの終了にあたり「これだけ真剣に、前向きに「図書館づくり、まちづくり」に取り組める仲間が集まったのですから、今後も継続的に図書館に関わっていただけると嬉しいです」といったご提案もいただきました。